

支援センター だより

栄町住民活動支援センター

6

2面…支援センター事業計画
3面…スタートアップ補助金
ホットにゆーす
4面…インフォメーション

活力あるまちづくりを進める活動の拠点として

2011 No.108

＝支援センター事業＝

住民活動ふれあいまつり 2011

10/16(日)

＝実行委員を募集します＝

町民の方に住民活動や NPO のことを知ってもらおうという思いで始めたふれあいまつりは第8回の開催になります。

今年も多く仲間が増えるようなまつりにしていきたいと思えます。

企画・運営を担ってくださる実行委員を募集します。

詳しくは支援センターにお問合せください。Tel 80-1733



昨年のまつりの様子

知ってる?! 栄町

五・七・五の文字に託す

～昔を偲ぶ句碑の道を訪ねて～

日本各地に句碑はありますが、栄町にも著名人の句碑があることを知っていますか。新緑の美しい5月、栄町の風物を詠んだ句碑を訪ねてみました

桜のきれいな長門川公園には2つの句碑が並んでいます。川べりにあるのが興津生まれ、東京都消防総官でありながら、水原秋桜子に学んだ篠田麦子の句碑です。その後ろには成田山新勝寺の大僧正荒木東皐の句碑があります。

和田地区を越えてながと幼稚園のそばに来ると、布鎌出身の小林竹青人の句碑があり、甚兵衛橋のそばには水原秋桜子の『柴漬や古利根けふの日を沈む』という句碑があります。柴漬って漬物のこと？変だなと思って調べてみると「ふしづけ」と読み、柴を沈めて行つ漁法のことでした。この句碑が建立された時、水原秋桜子は門下生と栄町に来て、役場の会議室で盛大な俳句会が開催されたそうです。

長門橋のたもとには高浜虚子の句碑があります。裏面を見るとこの地から高瀬舟に乗り、大漁節などを大合唱し、大いに楽しんだ様子が詳しく刻まれています。

安食小学校の坂道の途中には昭和22年から子どもたちを見守っている高野素十の句碑があります。

安食近辺は昔から俳句が盛んな所であつたらしく、明治後期から始まり、大正6年高浜虚子が安食を訪れた頃には、多くの俳人と交遊を深めていったようです。昭和39年頃、俳句に造詣の深かった石井泰助元町長の時に、句碑が建立されました。また「皐月」や「まこも」という雑誌も発行され、俳壇の中央にまで安食の名を広めていったそうです。

このような先人の足跡を大切に、もう一度俳句の町として町おこしができればいいなと思いました。

センター掲示板には、北辺田小学校の生徒さんの感性豊かな俳句も掲示しています。ぜひご覧ください。

また、支援センターには句碑コースのウォーキングマップもあります。



高浜虚子の句碑
長門川たもと